

「小学生の孫が農作業を手伝ってくれ」と、うれしそうに話してくる姿に、明るい未来が見えた気がしました。

職業は農業です。キャベツ、白菜などの露地野菜と、水稲を作っています。以前はサラリーマンでしたが、退職してから農業を始めました。

地元の方には慣いながら、育て方も毎年変わってきます。今年はどうしたらいいかといったことを教わりながら、みんなで話し合うのが楽しいです。

夢は特産品づくりです。南国市産の野菜を使って、南国市に出来ない食べ物を作りたいです。昔のように活気のある農業を取り戻したいですね。

市民からのお便り

暑くてもしっかりと食べています。霜月、師走が、今は待ち遠しい感じがします。

元気のある農業を



はまぐち せいけん 浜口 正憲さん (浜改田)

ミニミニライフ

158



吾岡山の駄菓子屋さん



たどころ はつこ 田所 初子さん (大埔甲)

吾岡山の管理棟でかき氷や駄菓子などを販売しています。公園を管理する地元の会から、子どもの見守りを兼ねてやってほしいと話をいただき、7月から始めたばかりです。お小遣いの範囲で買えるようにと、商品の値段は10円から100円までになっています。もうけはほとんどありません(笑)。

何かあればすぐに飛び込んで来てくれることができるように、お店のドアはいつも開けてあります。事故が起らないように楽しく遊んでもらいたいですね。モットーは「いつも明るく、人に親切でありたい」です。

「子どもが大好き。元気をもらっています」と田所さん。飛行機が間近に見られる吾岡山へ遊びに行ってみませんか？

親子クイズ 496

Q 南国市に関する問題です。○の中に漢字を入れて、文章を完成してください。

高知県内では、あっちこちで頭に笠(すげがさ)を、手に金剛杖を持ち、頭陀袋(ずだぶくろ)を首にかけて、四国の札所を回る歩き遍路さんをよく見かけます。

南国市内には、四国八十八カ所霊場の札所が2カ所あります。第○番札所○寺と第○番札所○寺です。

【第495回解答】

- 答え
- ①如月(きさらぎ)
  - ②卯月(うづき)
  - ③皐月、早月(さつき)
  - ④葉月(はづき)
  - ⑤霜月(しもつき)
  - ⑥師走(しわす)

【第495回当選者】

- 阿部 李(下野田)
- 安岡 富美子(大埔甲)
- 和田 憲昭(大埔甲)
- 高橋 洋子(明見)
- 有田 君子(緑ヶ丘)

■応募締切/9月12日(木)必着

■あて先/〒783-8501 南国市大埔甲2301 南国市企画課「親子クイズ」係

\*はがきで応募

■賞品/正解者の中から抽選で、5名に図書カード(1,000円)を贈呈

★応募総数/53通 ★正解率/96%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

市民からのお便り

クイズ解くこの一時(ひととき)が、ひととき

この前まで私の住んでいる地域では、「結い」という共同作業が頻繁に行われており、例えばハウスのビニール張りや農具の散布などがそれで、いわゆる地域の「絆」であり「つながり」でした。作業が終わった後は必ず宴会で、昼間からでも、にぎやかな声が聞こえていました。最近ではそんな声が次第に聞こえなくなってきました。

さて、高知県の少年非行の現状は、非行率(\*)と刑法犯総検挙人数に占める少年の割合が平成23年は全国ワースト1位、また、暴力行為発生件数、不登校児童生徒数や高等学校の中途退学率が平成23年度はそれぞれ全国ワースト10位までに入っており、非常に厳しい状況にあります。

非行は、少年自身の性格的要因はもちろんのこと、家庭的、環境的、また家庭や地域社会の教育機能の低下などの様々な要因が複合的に絡み合って発生しているといわれています。

高知県では、「日本一の健康長寿県構想」の中で非行防止対策の推進を掲げています。この6月には、「高知家の子ども見守りプラン」を取りまとめ、行政と民間などの垣根を超えて、多様な関係機関や家庭などを巻き込んだ、地域

「『結い』の社会」

※お問い合わせは 人権啓発広報委員会 (0880・6569) まで

このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願って、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

\*非行率とは、少年人口千人当たりにおける検挙・補導少年の割合です。

今、高知県は、「高知家」で売りに出されています。この前まで当たり前にあった「結い」の社会のよくな、暖かい、つながりのある「家」が、子どもたちを育てる親の周辺にあれば、少しは少年非行が少なくなっていくのではないのでしょうか。

このプランは、「保護者」だけに子育ての責任を担わせるのではなく、地域社会全体で子どもの育ちを支援する体制づくりを推進し、「地域の子どもたちは地域で守り育てる」気運を醸成することを目指しています。

が一体となった総合的な取り組みを進めていくことが決定されました。

33 人権学習シリーズ

なんこく歴史散歩 第11回

国分寺は、創建以来、栄枯盛衰を繰り返しつつも、戦国時代、長宗我部氏の金堂再建、江戸時代の山内氏の庇護などにより、数多くの文化財を今に伝えています。そのうちの一部を2回に分けてご紹介いたします。

木造薬師如来立像

国分寺には、国の重要文化財に指定されている仏像が2体あり、いずれも木造薬師如来立像です。この2体は平安時代後期と鎌倉時代の作で、大きさや作風が異なり、それぞれの時代の特徴をあらわしています。

平安時代後期のものは、高さ9.6cmの立像で、ヒノキの一木造で造られています。



木造薬師如来立像 (平安)



木造薬師如来立像 (鎌倉)

が行われたことが分かります。

梵鐘(ぼんしょう)

9世紀の初め、平安時代前期に製造された県内最古の梵鐘です。昭和31年に国の重要文化財に指定されました。平安時代前期は、土佐国分寺の伽藍(がらん)が整備された頃と考えられ、その時に納められたものと思われる。大きさは、高さ80.6cm、口径47.2cmです。梵鐘の大きさが当時の国力の強さと国分寺の大きさを示しているとも言われています。



梵鐘

—歴史を物語るものたち— 「土佐国分寺の文化財1」

※お問い合わせは 生涯学習課文化財係 (0880・6569) まで